

「人物伝」のレッスンを「自分ごと」として考える探究型授業  
の実践：国際バカロレアの「10の学習者像」に着目して  
Inquiry-based Learning and Use of the IB Learner Profile in  
an EFL Class with Biographical Texts

安田 明弘

武蔵高等学校中学校

**Abstract**

This paper reports a case study of an EFL lesson at a Japanese high school, which incorporates inquiry questions and the IB learner profile as a means to deepen students' understanding of the people described in biographical texts. The lesson was also intended to help students view themselves in the light of what they have learned about the persons described in those texts. For students to be able to analyze the figure in the biography and reflect on themselves, the instructor's questions and some criteria for analysis and reflection were considered an essential part of the lesson. The instructor generated three inquiry questions for the lesson based on the seven principles mentioned by McTighe & Wiggins (2013). Students analyzed and evaluated the strength and the uniqueness of the people focused on in the texts using IB Learner Profile (IBO, 2014). They also used the same criteria for reflecting on themselves after studying the biographical texts. In this paper, the background to the lesson design, the lesson procedure, and the comments produced by students are reported.

キーワード： 人物伝, 自分ごと, 問い (Inquiry Questions), 10の学習者像 (IB Learner Profile), アウトプット活動

|           |                     |
|-----------|---------------------|
| 科目名       | コミュニケーション英語 I (3単位) |
| 対象者とクラス人数 | 高校1年生 4クラス 174名     |

|       |  |
|-------|--|
| 学習の目標 | コミュニケーション英語の検定教科書を用いたインプット活動を中心に、四技能の運用能力を統合的に高める。 |
|-------|--|

## 1. はじめに

本稿では検定教科書でどの教科書でも扱われる頻出のトピックとなっている人物伝に着目し、このレッスンを学習者が「自分ごと」として考えるために、一種の体系化を試みた授業実践を紹介する。具体的には、「問い」を利用し、学習者に同じ角度から、(1)教科書で学んだ人物と(2)現在の自分と(3)自分の理想像との三者を描写する、という活動を行わせることにより、学習対象の人物と学習者自身とを結びつけさせることを目標とした授業である。尚、本稿の内容は、関東英語授業研究会(2019年)での自由発表「人物伝」のレッスンを「自分ごと」として考える授業実践」に基づいている。

## 2. 授業設計の背景

人物伝は英語の検定教科書において頻出のトピックである。しかし、登場する人物はグローバルに活躍する人物であったり、歴史上の偉大な人物であったりと、一見学習者個人となかなか結びつきにくいことも多い。そこで、いかに人物伝の主人公から得られる学びを学習者にとって「自分ごと」として考えることができるかを授業設計の骨子とした。以下2.1~2.3では、現状のアウトプット活動の分析と、授業を設計するにあたり参考にした学習理論、枠組みを紹介する。

### 2.1 人物伝を利用した様々なアウトプット活動

四技能統合の視点から、教科書のインプットを使った最終的なアウトプット活動について分析した。人物伝を使ったアウトプット活動としては以下のようなものが考えられる。

- ・その人物の物語を伝える(スピーチ, リテリング)
- ・その人物の物語を演じる(ロールプレイ)
- ・その人物のある行動について討論する(ディベート, ディスカッション)
- ・その人物に手紙を書く(ライティング)

これらの活動には大きく2つのメリットがあると考えられる。第1に、インプットで触れた言語材料を最大限利用できるという点である。英語学習の視点からも、インプット活動で得た表現や語彙をアウトプット活動で使うことは理にかなっている。また、これらのアウトプット活動を通して、学習者はその主人公の立場に立ち、考えを深めることができる。し

かし、このようなメリットがある一方で、デメリットもあるのではないか。一番大きなデメリットは、題材によって適切なアウトプット活動をその都度考えなければならないということである。適切なアウトプット活動を設定し、教材研究をすることは教員にとっても非常に負荷が高い。また、これらの活動の多くは「なぜ、その人物について学ぶのか」の根本的な問いに答えるものではないということも考えられる。これらのデメリットを解消することを目的として、別の角度からのアウトプット活動をゴールとした人物伝のレッスンを考案した。

## 2.2 「問い」を中心とした探究型学習

具体的に、学習者にとって学習内容を自分ごととして、思考させるための手段として探究型学習 (Inquiry-based Learning) の手法がある。ある事柄に対する「問い(Inquiry questions)」を通して、その題材について理解や自分の考えを深めていく学習方法である。今回は、問い作りの足がかりとして、McTighe&Wiggins (2013)の「本質的な問い(Essential Questions)」を利用した。この中でMcTighe&Wigginsは、良い「問い」の特徴を以下の7点で記している。

- オープンエンドな問いであること (唯一の正しい回答はない)
- 思考を誘発し、知的に興奮させるもの
- より高次の思考を誘発するもの (分析や、評価、推論など)
- 重要で転移可能な概念を指し示すもの
- さらなる問いを生み、より深い探究の火をつけるもの
- 答えそのものではなく、根拠や裏づけとなる情報を必要とするもの
- 生涯にわたってなんども問い直しをされるもの

なるべく以上の点を意識しながら、今回の授業の中心となる「問い」作りを行った。

## 2.3 人物の評価軸としての国際バカロレア「10の学習者像」

授業設計の最後に、人物伝という題材を通して、その登場人物や学習者自身にとって、「ものさし」となる評価軸を探していたところ、国際バカロレア(International Baccalaureate: IB)の「10の学習者像 (IB Learner Profile)」に出会った。これは、IBが掲げるMission Statementを実行できる学習者の姿を提示したものであり、この姿が10の特徴にまとめられている。

### IB Mission Statement

「国際バカロレア (IB) は、多様な文化の理解と尊重の精神を通じて、より良い、より平

和な世界を築くことに貢献する，探究心，知識，思いやりに富んだ若者の育成を目的としています。」(International Baccalaureate Organization, 2014)

「10の学習者像」では，具体的に以下の項目が挙げられている。

- Inquirers (探究する人)
- Knowledgeable (知識のある人)
- Thinkers (考える人)
- Communicators (コミュニケーションができる人)
- Principled (信念を持つ人)
- Open-minded (心を開く人)
- Caring (思いやりのある人)
- Risk-takers (挑戦する人)
- Balanced (バランスの取れた人)
- Reflective (振り返りができる人)

これらの項目は，Mission Statement に示されるようなグローバル人材育成を目的として設定されているため，教科書で扱われている人物伝に登場するグローバルリーダーたちにも当てはまる点が多い。また，学習者が自分自身について振り返る「ものさし」としても適切と判断し，利用することとした。

### 3. 授業内容

授業の流れとしては，以下のように行った。

1. Unit を通しての「問い」と「10の学習者像」の導入（1時間）
2. 教科書本文の学習（16時間）
3. 「10の学習者像」を利用した振り返り（1時間）

#### 3.1 「問い」の導入と「10の学習者像」の導入（1時間）

最初の授業では，前出の McTighe&Wiggins (2013)に基づき，本レッスンを通して探究していく以下の3つの問いを生徒に導入した。

1. What kind of person are you?
2. What kind of person is needed for the world?
3. What kind of person do you want to be?

それぞれの問いに関して，導入として利用した言語活動とともに紹介する。

##### 3.1.1 What kind of person are you?

最初の問いについては，学習者に答えとその根拠を述べさせながら自己分析させた。その



other individuals and cultures.

8. Inquirer(s) - I am curious. I ask questions. I love to learn.

9. Communicator(s) - I can share and receive ideas and information in more than one way.

10. Reflective - I think about my own learning. I think about my strengths and weaknesses in a constructive manner.

### 3.1.3 What kind of person do you want to be?

この最後の問いに関しては、本文を読み終わったあとに改めて考えてもらうという前置きをした上で短時間取り上げた。また、これから学習していく人物は10の特徴のどれを強く持っているか考えながら読むように指示した。

## 3.2 教科書本文の学習(16時間)

前節で述べた導入の1時間を受けて、2時間目からは教科書の本文の学習を行った。三省堂のCROWN I から日本においてFood Bankを設立したSecond Harvest JapanのCharles McJiltomと、CROWN II から国境なき医師団で活躍した医師の貫戸朋子氏のレッスンを選んだ。それぞれ8時間ずつ使い、内容理解からリテリングまで行った。

### 3.3 「10の学習者像」を利用した振り返り(1時間)

それぞれの人物のレッスンが終わったタイミングで、「10の学習者像」を利用した振り返りを行った。具体的には、その人物が、10の学習者像のどれに特に優れている人物か説明するというものである。それぞれ以下のように様々な意見がでた。同じ人物で同じストーリーを読んでも、これだけ幅広い意見が出たことはとても興味深い。尚、学習者のコメントを原文のまま記しているため、不自然な点があるがご了承頂きたい。

McJiltom氏に対して

- He is a **communicator** to contact people with the food. He is **caring** to help other people.
- He is **caring** because he once lived with homeless person in order to learn and share their perspectives.
- He is a **thinker** and also **principled**, he believes in people and have enough ability to think how to solve the unfair of the world.
- In my opinion, he is **caring** and **reflective**. First, the reason why I think that

he is caring, he has compassion of homeless or poor people. Second, he found something missing in himself that he had “head knowledge” about homelessness, but don’t have “heart knowledge.” So, I think that he is reflective.

Kanto氏に対して

- She is **knowledgeable** and **caring**. She helps people and thinks about all of their patients. She is also interested in many different cultures. That is why she joined MSF.
- She is **caring** to help other people. She is **principled** to (be) fair (to) people all in the world such (as) African boys.
- She is a **risk taker** and principled. Because she went to the field where fighting was going on to help sick people.
- She is a **risk-taker**. Always she was not satisfied with success on the situation and she wanted to challenge something and actually took action.
- She has a side of **risk taker** because she went to dangerous areas to save people. She has another side of **knowledgeable**. She always wanted to know many things, and she wanted progress.

また、10の学習者像を利用した振り返りのあとに、1時限目の導入の際に問いかけた第3の問いに関して改めて振り返りを行った。その中でも下記のような様々な振り返りが生徒の反応として出てきた。主張だけでなく、一般論から個人的経験まで、内容は様々ではあるが下線部のような理由も述べられていた。

“What kind of person do you want to be?”という問いに対する生徒の反応

- I want to be **caring** because I want to help person who is facing difficult problems.
- I want to be **balanced**. I always want to control my mind and body since that. Also, I want to be **reflective**. I think that we can learn from the past so much. We should learn to survive in the future.
- I want to be **open-minded** and **communicator**. Because I want to be a person who can be considerable of others and tell my opinion to others.
- I want to become a person **caring** and **reflective**. Because kindness is necessary to make a good relationship with others and it is important to think back on the things.

- I want to be a person **balanced**. Because I am too shy, too sensitive, and so on. So I want to keep my mind positive and happy. Moreover, I want to be a **communicator**. I want to get more skills of English, and communicate with the people all over the world.
- I want to be a **balanced** person and a **risk-taker**. Why I think so is that I'm sometimes lack of confidence and remain the state when a bad thing happen. Because of this, I occasionally lose my passion about things that I'm being engaged in. On the other hand, when I'm doing well, I can be confident in what I'm doing....(下線は発表者による)

#### 4. おわりに

今回は検定教科書を利用しつつ、いかに学習者にとって題材を「自分ごと」として考えられるかという視点で授業づくりを行った。その中で、探究型学習という「問い」を中心とした授業設計と、人物評価のための「ものさし」としてのIBの「10の学習者像」は、人物伝の登場人物を学習者自身が自分なりに再評価し、また学習者自身についての内省を促すという点において、想定していた機能を果たした。今回の実践が学習者にどのような変化を起こしたかについては今後さらなる研究が必要となるが、少なくとも「どのような人物がグローバルに期待されているか」、また「自分はこれからどうありたいか」について考える機会を提供することは価値のあることだと考える。

#### 参考文献

- McTighe, J., & Wiggins, G. (2013). *Essential questions: Opening doors to student understanding*. Ascd.
- 国際バカロレア機構(2014)『国際バカロレア(IB)の教育とは?』(=International Baccalaureate Organization(2013), What is an IB education?, Cardiff: IBO.)